

2020年9月4日(金)

老球の細道560号

### 会津地区ミニバス新人大会観戦始末記

会津バスケットボール協会 室井 富仁

3月からコロナ禍で中断していたNBAが7月からフロリダ州オーランド、ウォルト・ディズニー・ワールド・リゾート内のスポーツ施設「ESPNワイド・ワールド・オブ・スポーツ・コンプレックス」で7月末から再開された。途中、黒人差別抗議で何試合か中断されたが、現在順調にプレイオフ真最中である。

一方、日本ではコロナ感染が緩やかに減少だが、会津では連日感染者が見つかり不安状況の中で、2月末に中断していた「第27回全会津ミニバスケットボール新人大会」の順位決定戦、準決勝、決勝が8月29日(土)30日(日)「鶴ヶ城体育館」において開催された。

大会の前日、会場地である会津若松市に歴史的な異変が起こった。関ヶ原合戦や戊申の役でなりえなかった「全国制覇」を経験したのである。8月28日気温「約38度」日本一を達成。私事であるが、それより前に私の弟の住む静岡県浜松市が気温40度を越えて日本一になったので、恥ずかしながら兄弟で日本一を経験したのである。バスケットボールだったらよかったが、なにはともあれ何事においても「日本一」を経験することは素晴らしい。

大会が近づくとつれて、それまで皆無だった会津地区のコロナ感染者が徐々に増加することで、大会事務局へ保護者から開催を心配する声がたくさん来たという。しかし、事務局は、これまでコツコツ準備してきた子どもたちのことを最優先に考え、ガイドラインを徹底することで開催を決断した。体温調査カードの提出、試合後の用具消毒、ベンチエリアのスペース、観戦者の制限やマスクの徹底とできる限りの予防策を取り大会を無事終了させた。

閉会式において、大会に関係したすべての人に「ご苦労様でした。そして、ありがとうございました」と感謝の旨を話した。全国レベルの暑さのため、コロナと熱中症の壁が立ち上がったが、子どもたちの表情を見て、中止にしないで本当に良かったと思う。

相当長い期間練習自粛だったので試合の内容が心配されたが、男女とも見ごたえのあるゲームが多かった。特に男子のレベルは高く、気温と同様全国レベルであった。特にあちこちのチームに将来有望な金の卵選手がおり、高校生レベルの個人技を披露してくれた。このような選手たちが中学校、高校と地産地消で順調に成長してくれば、会津も気温だけでなくバスケットボールでも全国レベルになれるのにと、私はマスクの下でほくそ笑んでいた。

コロナ禍で今後再び自粛の嵐が来ても、今まで進んできた歩みを止めず、やれる人達が、やれる時間を作り、やれる場所で、やれることを、やれる方法でコツコツコツンコとたゆまず歩み続けてほしい。

余談であるが、先日ミニバス連盟役員のM氏から「コツコツと続けるコツは？」というダジャレな質問を受けた。答えは「3の法則」を実践すること。「やり始めたら3日続け三日坊主を回避。3週間続け習慣化して続ける苦痛を回避。3か月続けるとコツコツの成果があらわれ幸福感。その勢いで3年続ければその道のプロ。飯が食える」。